

運輸・倉庫業

業況、売上、採算

今期（2022.7～9）の業況判断DIは23.5で、前年同期（2021.7～9）と比べ51.2ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

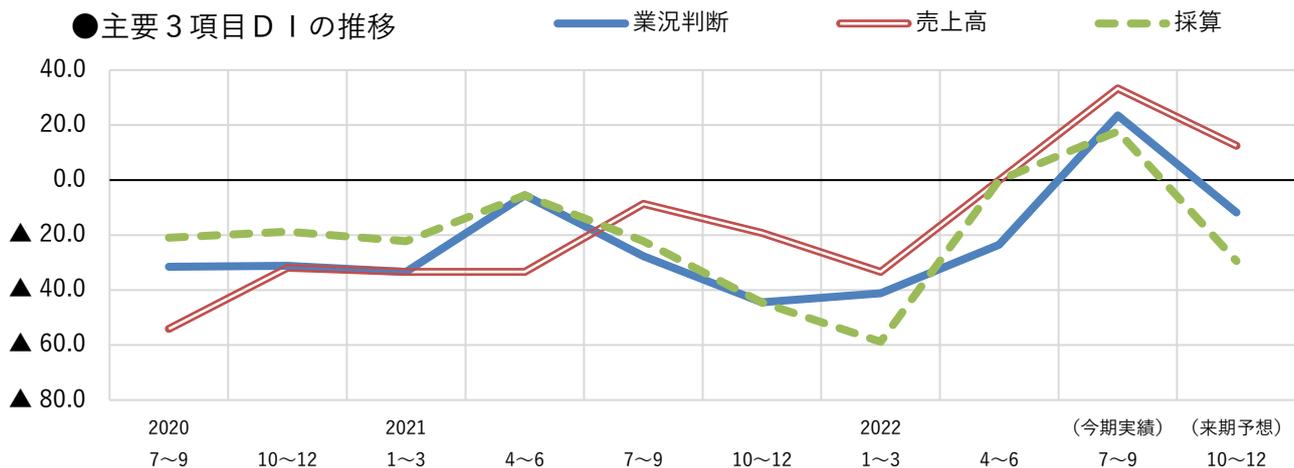
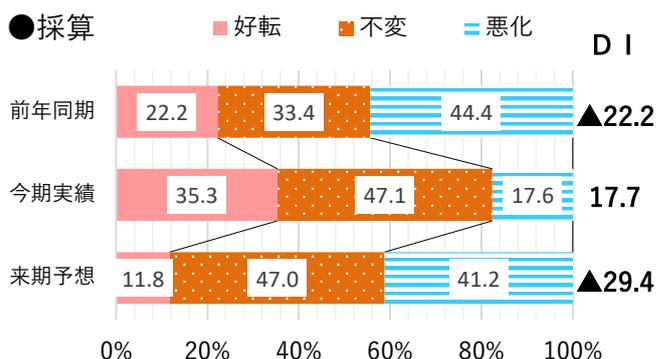
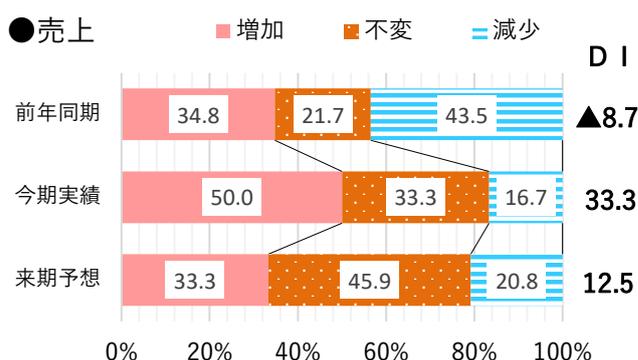
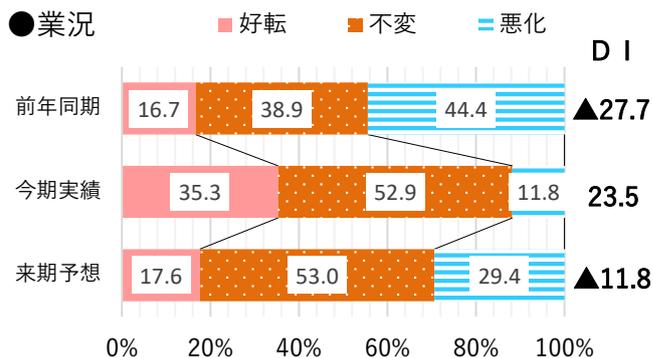
来期（2022.10～12）は、業況が大幅に悪化し、マイナスに転じると予想しています。

今期の売上高DIは33.3で、前年同期と比べ42.0ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、売上の増加傾向が弱まると予想しています。

今期の採算DIは17.7で、前年同期と比べ39.9ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

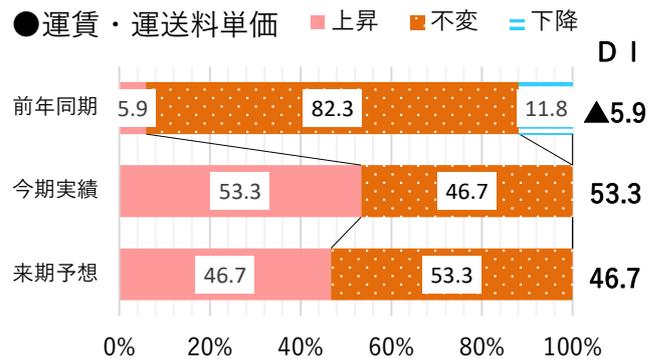
来期は、採算が大幅に悪化しマイナスに転じると予想しています。



運賃・運送料単価、保管料単価

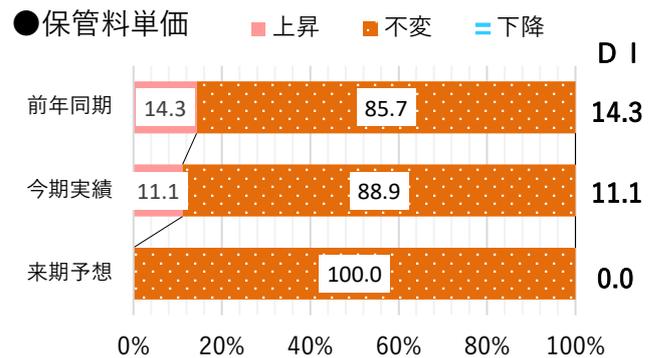
今期の運賃・運送料単価DIは53.3で、前年同期と比べ59.2ポイントと大幅に上昇し、プラスに転じました。

来期は、運賃・運送料単価の上昇傾向が続くと予想しています。



今期の保管料単価DIは11.1で、前年同期と比べ3.2ポイント低下しました。

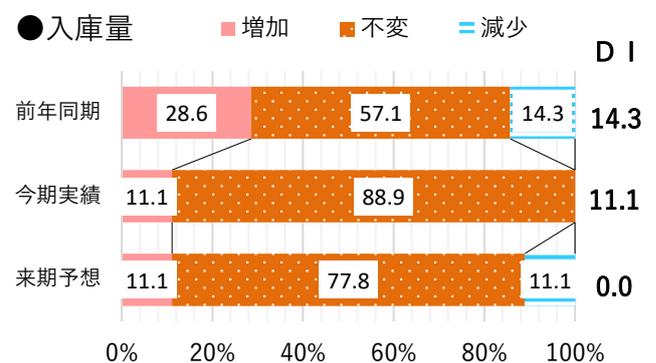
来期は、保管料単価の上昇傾向が弱まると予想しています。



入庫量、出庫量、保管残高

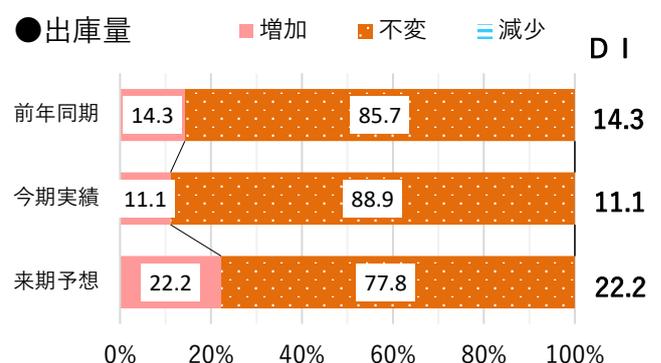
今期の入庫量DIは11.1で、前年同期と比べ3.2ポイント低下しました。

来期は、入庫量の増加傾向が弱まると予想しています。



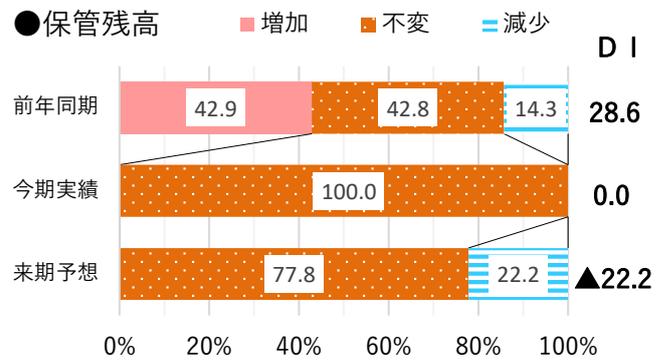
今期の出庫量DIは11.1で、前年同期と比べ3.2ポイント低下しました。

来期は、出庫量の増加傾向が強まると予想しています。



今期の保管残高DIは0.0で、前年同期と比べ28.6ポイント低下しました。

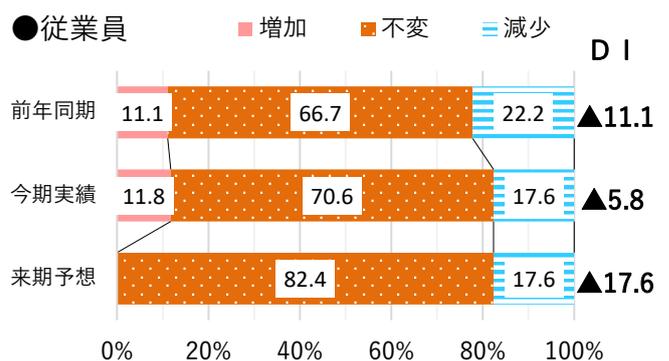
来期は、保管残高がマイナスに転じると予想しています。



従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲5.8で、前年同期と比べ5.3ポイント上昇しました。

来期は、従業員の減少傾向が続くと予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業はなく、適正であると回答した企業の割合は64.7%、不足していると回答した企業の割合は35.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、運輸・倉庫業全体の58.8%を占めています。

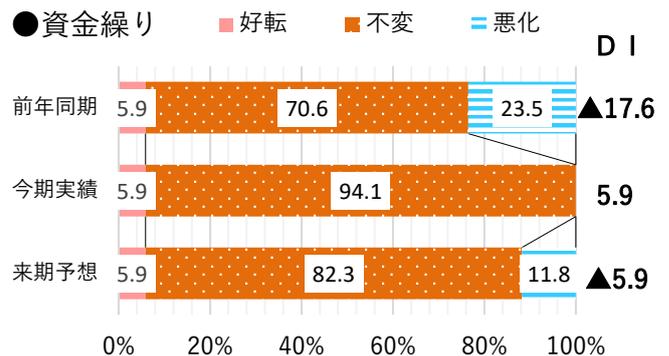
次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	1
	不足	1
不変だった	過剰	0
	適正	10
	不足	2
減少した	過剰	0
	適正	0
	不足	3

資金繰り、設備投資

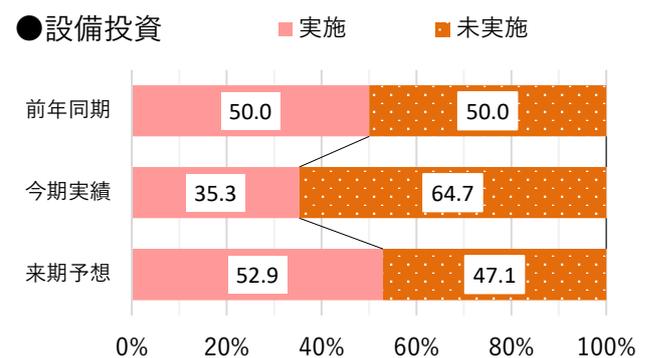
今期の資金繰りDIは5.9で、前年同期と比べ23.5ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りがマイナスに転じると予想しています。



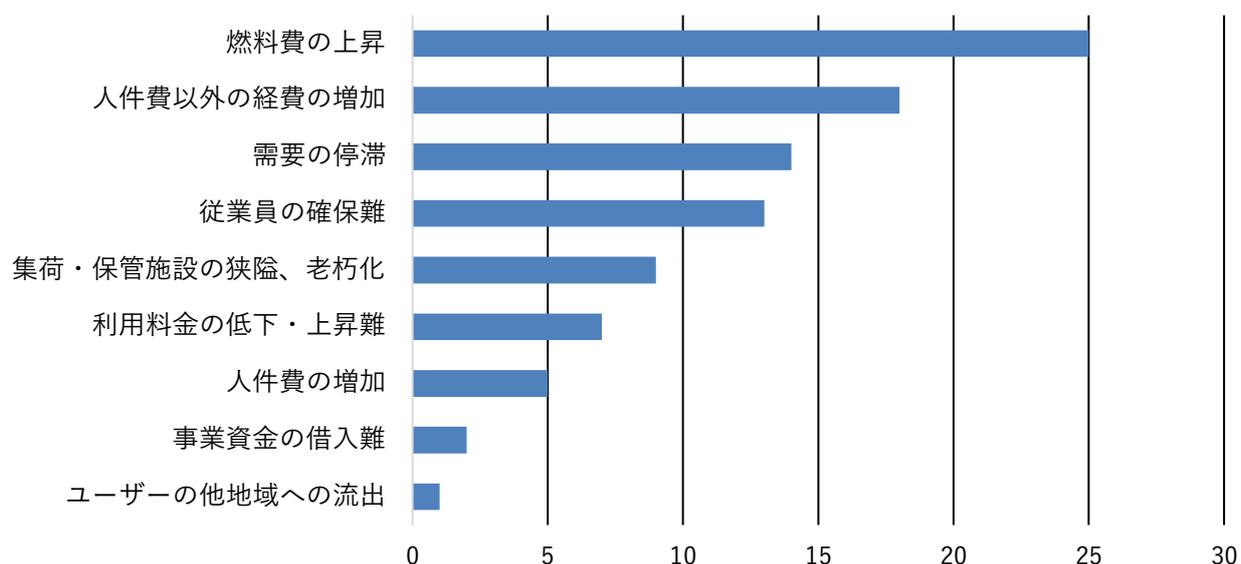
設備投資を実施した企業の割合は35.3%で、前年同期と比べ14.7ポイント低下しました。投資内容は、1位が「輸送機材」、2位が「付帯施設」、「O A 機器」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は52.9%で、増加を予想しています。



経営上の問題点

今期直面した経営上の問題点は、1位が「燃料費の上昇」、2位が「人件費以外の経費の増加」、3位が「需要の停滞」の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 売上が減少し、燃料費の高騰で減益となった。現場、事務ともに人員が不足している。(道路貨物運送)
- 運賃の引き上げ難、燃料費の高止まり、自動車部品の大幅な値上げで業況が悪化した。(道路貨物運送)
- 運送単価を引き上げたことで、売上が増加した。(道路貨物運送)
- 貨物が大幅に減少し、業況が悪化した。(道路貨物運送)
- 運賃を引き上げた。(道路貨物運送)
- 行動制限がないため、売上は増加しているが、最低賃金や燃料費、タイヤの購入費用等で想定以上のコストがかかった。(道路旅客運送)
- 運賃を引き上げ、売上は多少増加したが、人員の減少と燃料費の高騰で厳しい状況だ。(道路旅客運送)
- 前年同期比の売上額はほぼ横ばいだった。(倉庫)
- ロシアのウクライナ侵攻により貨物の減少を予想していたが、昨年同様の荷動きだった。(港湾運送)
- 外出規制のない夏休み、お盆休みだったため、旅客はコロナ禍前の7~8割程度の水準まで回復した。燃料価格高騰の影響で運賃を引き上げた。(水運)

[来期の業況について]

- 運送料金改定の交渉がまとまれば、業況は好転すると思われる。(道路貨物運送)
- 運送単価の引き上げは予定していない。(道路貨物運送)
- 大きな変化はないと思う。(道路貨物運送)
- 円安と物価上昇がどこまで進行するのか分からない。従業員数を維持できるか不安だ。(道路旅客運送)
- 売上は引き続き伸びると思うが、コストの増加傾向も変わらないと思う。(道路旅客運送)
- 在庫量の減少に伴い、売上も減少すると思われる。(倉庫)
- 外出制限がなければ、旅客部門の増収が見込める。昨年は水不足で農作物の収穫量が少なかったが、今期は農作物が順調に生育しているので、貨物、倉庫部門の増収も見込める。(水運)